

法を用ひることを許さない。より複雑なる名を三つの組合せに縮小してもよい。

例： *Andropogon ternatus* subsp. *macrothrix* (*Andropogon macrothrix* 又は *Andropogon ternatus* subsp. *A. macrothrix* でない)； *Herniaria hirsuta* var. *diandra* (*Herniaria diandra* 又は *Herniaria hirsuta* var. *H. diandra* ではない)； *Trifolium stellatum* forma *natum* (*nana* デナイ)。*Saxifraga aizoon* subforma *sarculosa* ENGL. et IRMSCH. は *Saxifraga aizoon* var. *typica* subvar. *brevifolia* forma *multicaulis* subforma *sarculosa* ENGL. et IRMSCH. の代りに用ひてもよい。

第 29 條 異なる種の小区分には同じ性質形容詞を用ひてもよい、そして一つの種の小区分は他の種と同じ性質形容詞を持つてもよい。

例： *Rosa Jundzillii* var. *leioclada* 及び *Rosa glutinosa* var. *leioclada*； *Viola tricolor* var. *hirta* は既に *Viola hirta* と呼ばれる異なる種が存在するにもかかわらずかまはぬ。

第 30 條 同じ種の二つの小区分は級を異にして居つても同じ小区分の性質形容詞を持つ事は出来ない。然し同じ原型に基くものはこの限りではない。若しもより早い小区分の名が(三つの組合せ)正當に出版されておれば、後の者は不當なもので廢棄されねばならぬ。

例：三組合せ *Biscutella didyma* subsp. *apula* BRIQ. 及び *Biscutella didyma* var. *apula* *Haloccy* (Briquet, Prodr. Fl. Corse, II, 107, 108 : 1913 を見よ) は兩方共に用ひられる、それはこれ等は同じ原型に基づくもので一方が他方を含むからである。

次ぎなるものは正しくない：*Erysimum hieracifolium* subsp. *strictum* var. *longisiliquum* 及び *E. hieracifolium* subsp. *pannonicum* var. *longisiliquum*——同じ種に於いて同じ名を有する二つの變種を許す命名法の一型)。

*Andropogon Sorghum* subsp. *halepensis* var. *halepensis* HACK. は許さるべきである：二つの小区分は同じ性質形容詞を有するが *A. halepensis* BROU. といふ同じ原型に基く從屬的等級をあらはしてゐる、そして下級の小区分の性質形容詞が限定された意味に用られてゐる以外には同意義を有つてゐる。

勸告：

XVI. 種の性質形容詞に對しての勸告は種の小区分の性質形容詞にも同様に適合する。

XVII. 特品種 (forma specialis) は寄主種の後に名づけられるがよい(佛譯には「寄主種の名を屬格で持つがよい」)：必要な場合には二重名が用ひられてもよい。

例：*Puccinia Hieracii* f. sp. *villosi*； *Pucciniastrum Epilobii* f. sp. *Abieti-Chamaenii*.

XVIII. 植物學者はより高き小区分の名又は種の名の原型を含む種の小区分に新しい性質形容詞を與へるのを避けるべきである。それ等は同じ性質形容詞に接頭語をつけ又はつけずに繰り返すか、慣用の性質形容詞 *typicus*, *genuinus*, *originarius* 等の一つを用ひるべきである。

例：*Andropogon caricosus* subsp. *mollissimus* var. *mollissimus* HACKEL； *Arthraxon ciliaris* subsp. *Langsdorfii* var. *genuinus* HACK.

XIX. 種の小区分に新しい性質形容詞を提案する植物學者は種として又は他の種の小区分として同じ屬に以前に用ひられたものは避けること。(未完)

耿以禮氏：——歐亞產禾本科之一新屬 *Cleistogenes* (Y. L. KENG :——A New Generic Name, *Cleistogenes*, in the Grasses of Euarsia, in *Sinensia* 5 (1934) 147-157.

*Cleistogenes* KENG と云ふのは從來 *Diplachne* として知られて居たテウセンガリヤ

スの一群である。耿氏に依れば北米産の *Triplasis* に似て居るが護穎は微細な二齒を有するか又は全縁で内護穎の龍骨部は ciliolate-scaberulous な點が相違するし、又從來あてられて居た *Diplachne* はヒナガヤ (*Diplachne fascicularis* BEAUV.) が基準種であつて此れは *Leptochloa* と同じものである。 *Leptochloa* はテウセンガリヤス屬に比して稈の節が少なく、花序は澤山の 一側に配列する穗狀の總狀花序から成り、葯は短かく、又閉花を生じない點で區別される。

耿氏に従へば *Cleistogenes* 屬は五種を含み歐亞大陸の特産で各種の檢索表は次に譯出する通りである。

A. 稈は高さ 30セ.メ.乃至一米、疎生又は屢草生。

B. 小穗は 3-7-花(時に2花),長さ 7-12ミ.メ.

C. 花序は長さ 4-8セ.メ.下部の枝は單一、その長さ 2-4セ.メ.——1. *C. serotina* KENG.

D. 第二苞穎は長さ 4-6ミ.メ. 鋭尖頭、その下部には往々 3-5-脈、第一護穎の芒の長さは 1-3ミ.メ.——1a. var. *sinensis* KENG.

DD. 第二苞穎は長さ 2-4ミ.メ. 鋭頭又は稍鈍頭 一脈 第一護穎の芒は長さ 3-5ミ.メ.——1b. var. *Nakaii* KENG.

BB. 小穗は 1-3-花,長さ 5-7ミ.メ.——1c. var. *aristata* KENG.

AA. 稈は高さ 15-50セ.メ. 通常密に叢生.

B. 護穎は全縁.無芒(又は長さ 0.3ミ.メ.程の小突起あり)最下の護穎は長さ 3-4ミ.メ.——2 *C. chinensis* KENG.

BB. 護穎は微小なる二齒あり.有芒 最下の護穎は長さ 4-6ミ.メ.

C. 第一護穎の芒は 0.5-2ミ.メ.

D. 苞穎は通常鋭尖頭、龍骨上は稍粗澁、第一苞穎は長さ 1.5-3ミ.メ. 一脈——3. *C. bulgarica* KENG.

DD. 苞穎は鋭頭又は稍鈍頭平滑、第一苞穎は長さ 0.8-2ミ.メ. 屢無脈——4. *C. caespitosa* KENG.

CC. 第一護穎の芒は 3-7ミ.メ.

D. 第一護穎は長さ 5ミ.メ. 芒は長さ 3-5ミ.メ.——5. *C. squarrosa* KENG.

DD. 第一護穎は長さ 6ミ.メ. 芒は長さ 7ミ.メ.——5a. var. *longe-aristata*. KENG.

本邦産としては *C. serotina* var. *Nakaii* Keng 及び var. *aristata* Keng の二變種が記されて居る。 (J. O.)

クリステンセン氏：——羊齒類名彙第三増補 C. CHRISTENSEN: Index Fi-